

「牧師室」(2016年4月17日)

幾つもの病を抱え、わたしは今、健康状態が十分であるとは言えませんが、それでも楽しみがあります。それは幸いなことに、教会での働きを助けてくれるものです。先日来、元ゲッチンゲン大学教授で、晩年のカール・バルトの助手であった、エバハルト・ブッシュ(1937年生まれ)の説教の翻訳をしていましたが、時間を忘れて夜遅くまで、パソコンに向かっていました。年を取って尚、楽しみを持ち、生きがいとすることが出来ることは、神さまから与えられた喜び、祝福と言えるでしょう。

昔の話になりますが、わたしの翻訳で、新教出版社から出された『愛に生きる教会』という本があります(1987年)。著者は、1908年生まれで故人のヘルムート・ゴルヴィツアーという人です。この神学教授もカール・バルトと親しい関係にあった人です。

上記の書物には、前半にコリントの信徒への手紙13章一に関する説教が5つ掲載されており、後半には、「教会とは何か」に関する6つの説教が含まれています。30年以上前に出版された本ですが、折々に読み直す機会があります。H. ゴルヴィツアーは、コリントの信徒への手紙一13章に関する説教のある個所で、次のように言っています。「パウロが、イエスの愛につつまず話さねばならないと思ったことは、コリントの教会の人たちが期待されているということでした。一日なんとかやり過ごすことにせいっぱいで、余裕などもなく、誰一人として、何か自分に大きなことを期待している者などいなかったのです」。

今日は、教会総会が行われますが、私たち一人一人が、期待されていることを忘れてはなりません。教会は、わたしたちの居場所です。